

株式会社日新 2017年3月期決算説明会 及び第6次中期経営計画発表会



重点3分野の拡大により
営業利益3割増益を目指す

証券コード：9066

2017年5月26日

目次

2017年3月期
実績

- 営業利益は4期連続増益、純利益は過去最高益を更新

P.3

2018年3月期
計画

- 日本の回復とアジアの成長により目標達成をめざす

P.9

第6次中期
経営計画

- 重点3分野を成長のドライバーとして営業利益3割増の74億円達成をめざす

P.14



2017年3月期 実績

~営業利益は4期連続増益、純利益は過去最高益を更新~



2017年3月期決算 サマリー

- 為替変動や中国の成長鈍化等により、期初計画に売上高、営業利益は及ばなかったが、経常利益、当期純利益は上回った

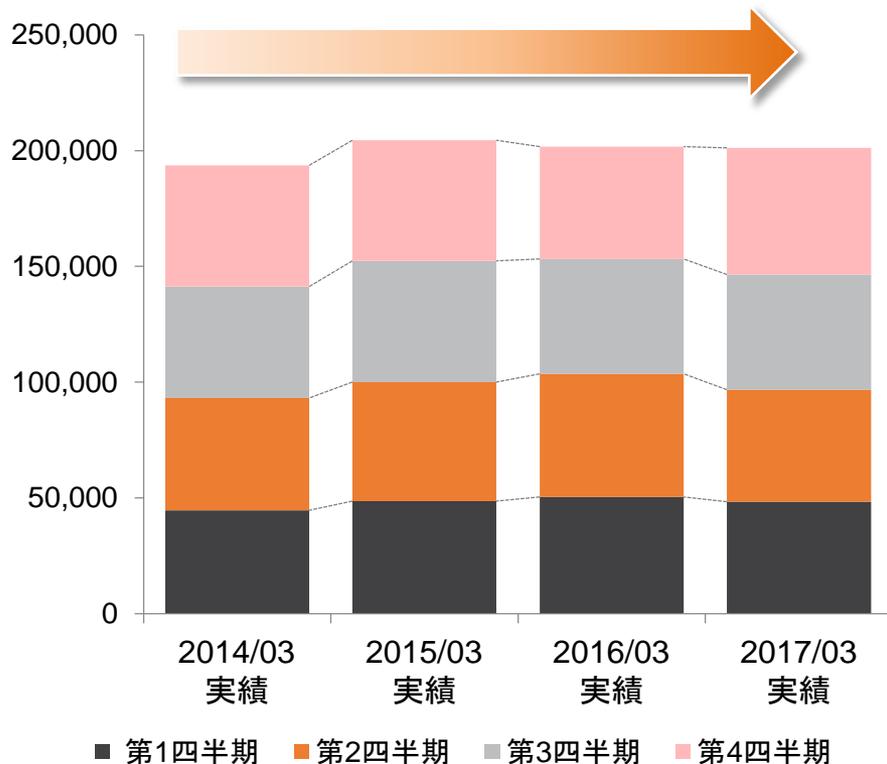
単位:百万円	2016年 3月期	2017年 3月期			
	実績	期初計画 (5月9日)	実績	計画比(%)	前期比(%)
売上高	201,705	210,000	201,209	95.8%	99.8%
営業利益	5,587	6,000	5,607	93.5%	100.4%
経常利益	5,887	6,200	6,266	101.1%	106.4%
当期純利益	3,196	4,000	4,457	111.4%	139.5%

四半期別業績推移

■ 売上高は横ばい推移ながら、“稼ぐ力”を身につけている

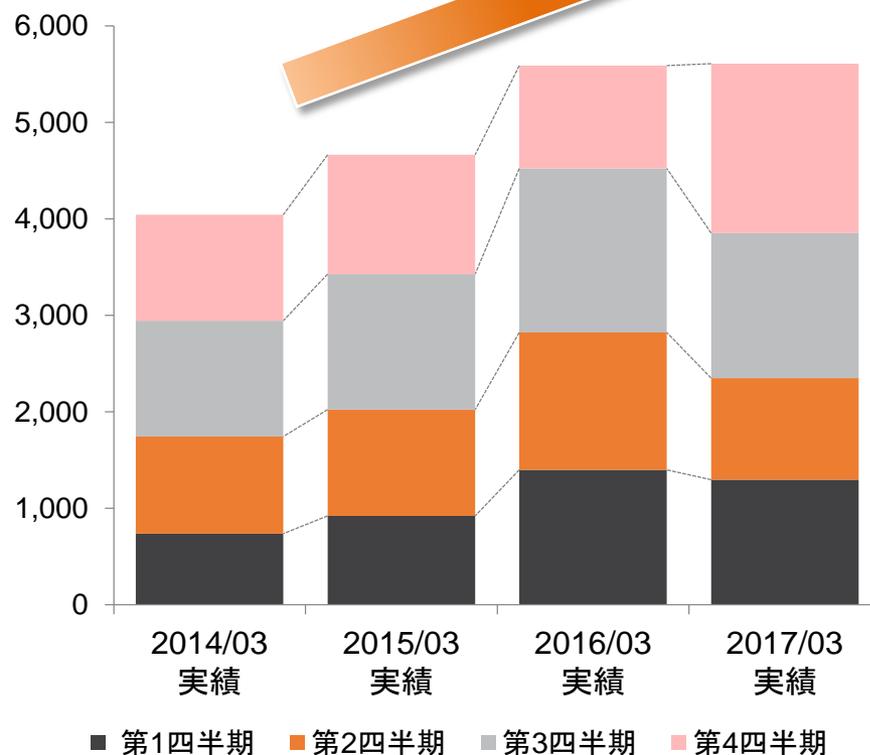
売上高

単位：百万円



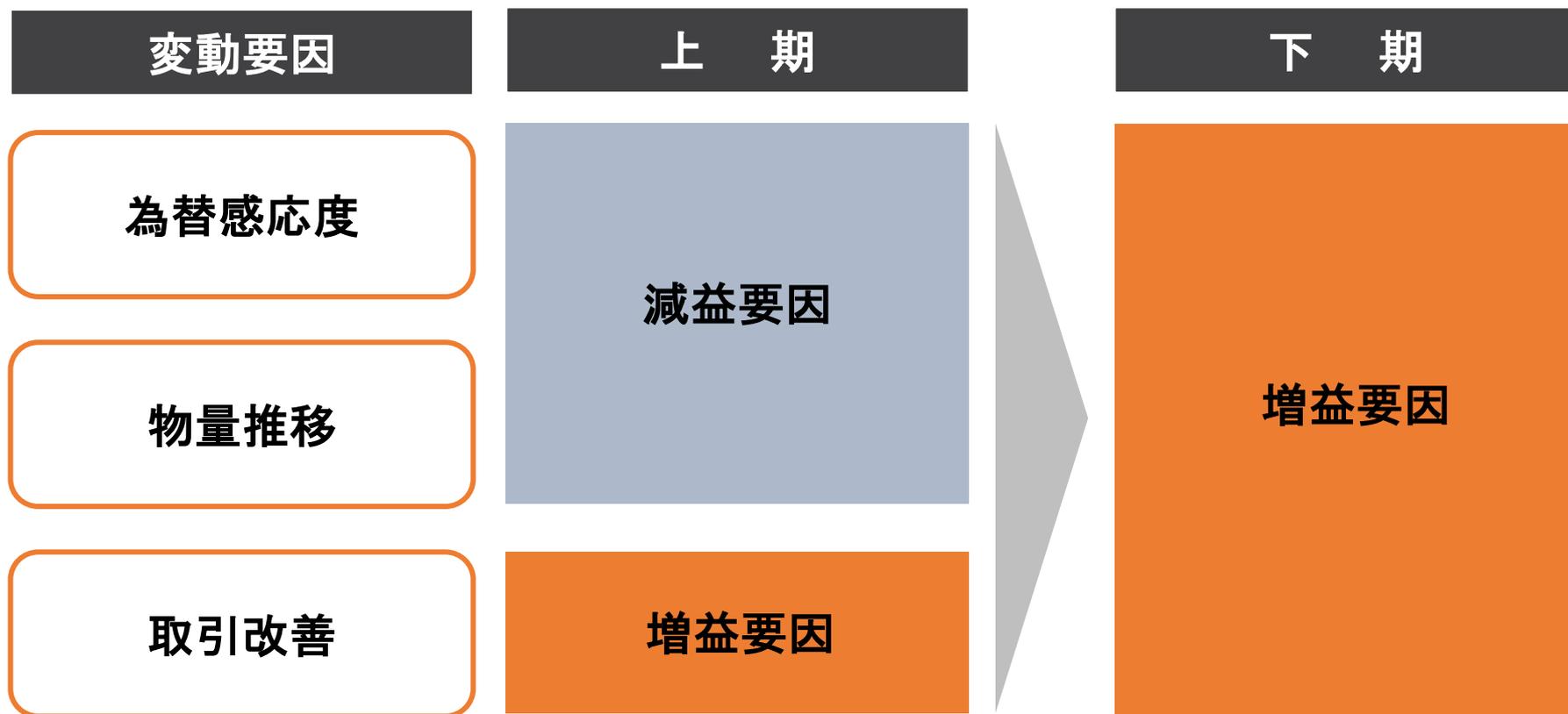
営業利益

単位：百万円



2017年3月期決算のPoint

- 下期以降、為替の安定推移に加え、物量拡大、取引改善が営業利益に寄与

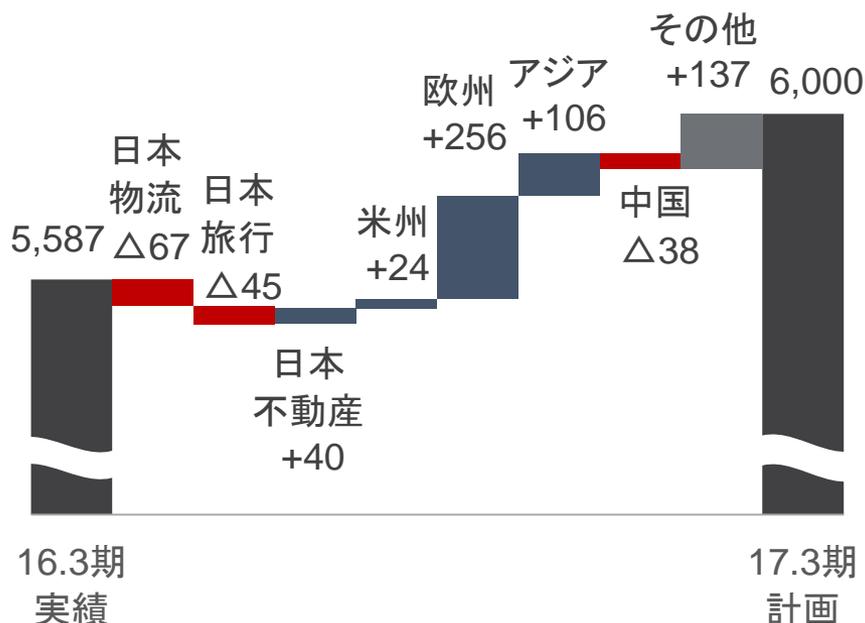


2017年3月期営業利益の増減要因分析

■ 欧州での新規案件が貢献するも、アジアでの落ち込みにより計画未達

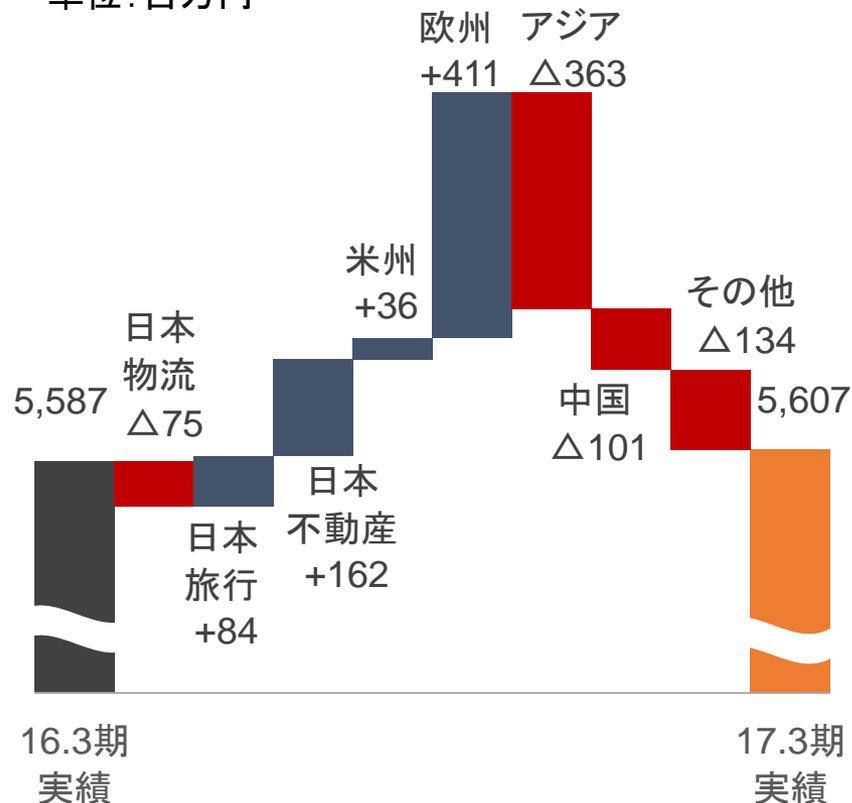
期初計画

単位：百万円



実績

単位：百万円



※「その他」は、連結処理等

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

営業利益の増減要因分析

単位:百万円

営業利益		2017年3月期 実績		要 因
		通期	計画比	
日本	日本物流	1,901	△ 8	上期は中国コンテナが減少したが、下期は航空貨物が増加し、コンテナターミナル集約が収益改善に寄与
	日本旅行	659	129	業務渡航や国内団体旅行が堅調
	日本不動産	830	122	京浜地区の不動産が寄与
	(小 計)	3,390	243	
海外	米 州	422	12	米国、メキシコで自動車関連貨物が増加
	欧 州	468	155	英国ミルクラン業務、倉庫業務の拡大
	アジア	686	△ 469	タイ・景気停滞、インド・化学品減産
	中 国	636	△ 63	航空輸出貨物の取扱低調 電子デバイスの荷動き低調
	(小 計)	2,212	△ 365	



2018年3月期 計画

~日本の回復とアジアの成長により目標達成をめざす~



2018年3月期 通期計画 サマリー

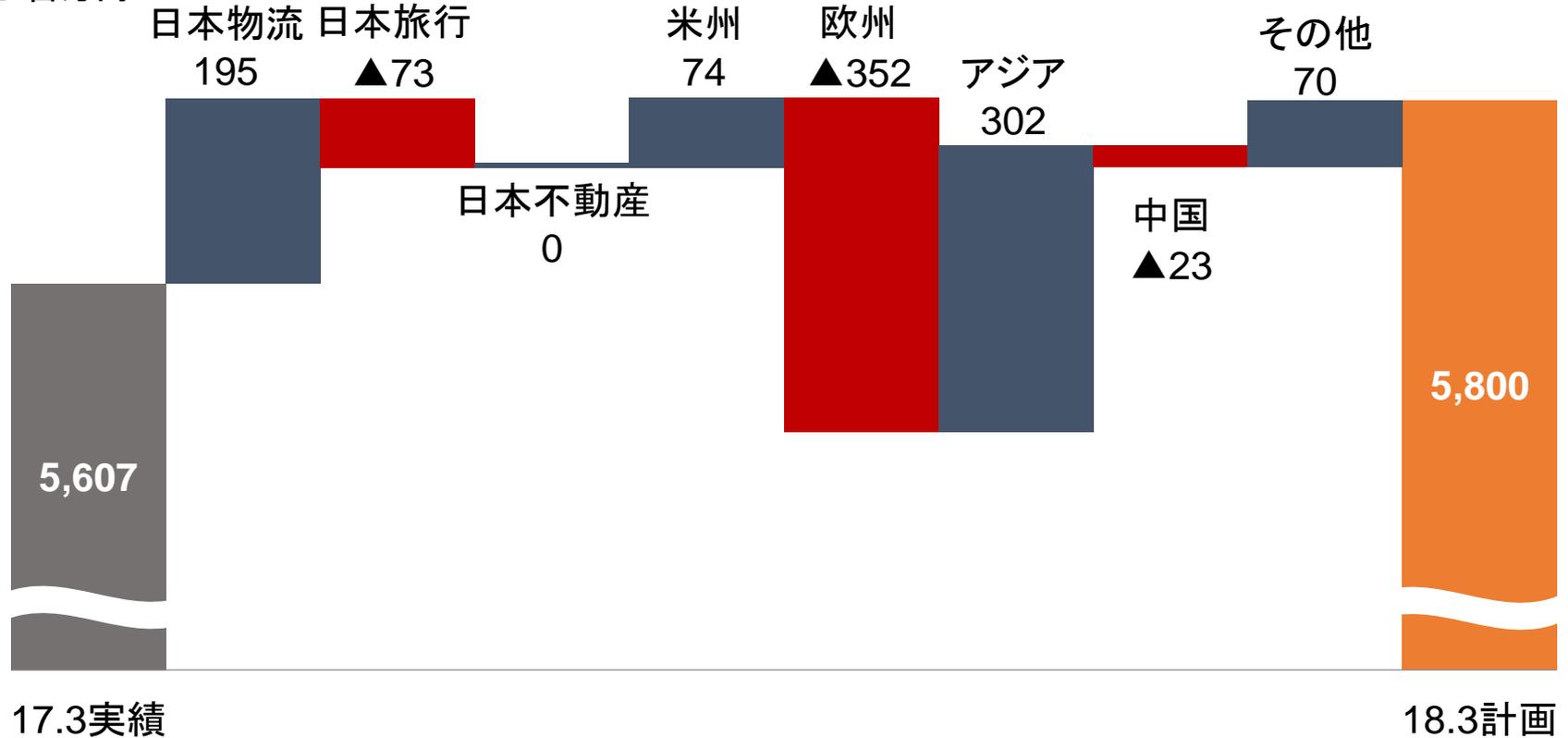
- アジアの収益改善により増収増益、営業利益は5期連続増益を見込む

単位:百万円	2016.3期 実績	2017.3期 実績	2018.3期 計画	前期比(%)	前期比(額)
売上高	201,705	201,209	207,000	102.9%	5,791
営業利益	5,587	5,607	5,800	103.4%	193
営業利益率	2.8%	2.8%	2.8%	-	-
経常利益	5,887	6,266	6,000	95.8%	▲266
当期純利益	3,196	4,457	4,600	103.2%	143

2018年3月期 地域別通期計画(営業利益)

■ 欧州落ち込むも、日本物流の回復とアジアの成長が収益を牽引

単位:百万円



※「その他」は、連結処理等

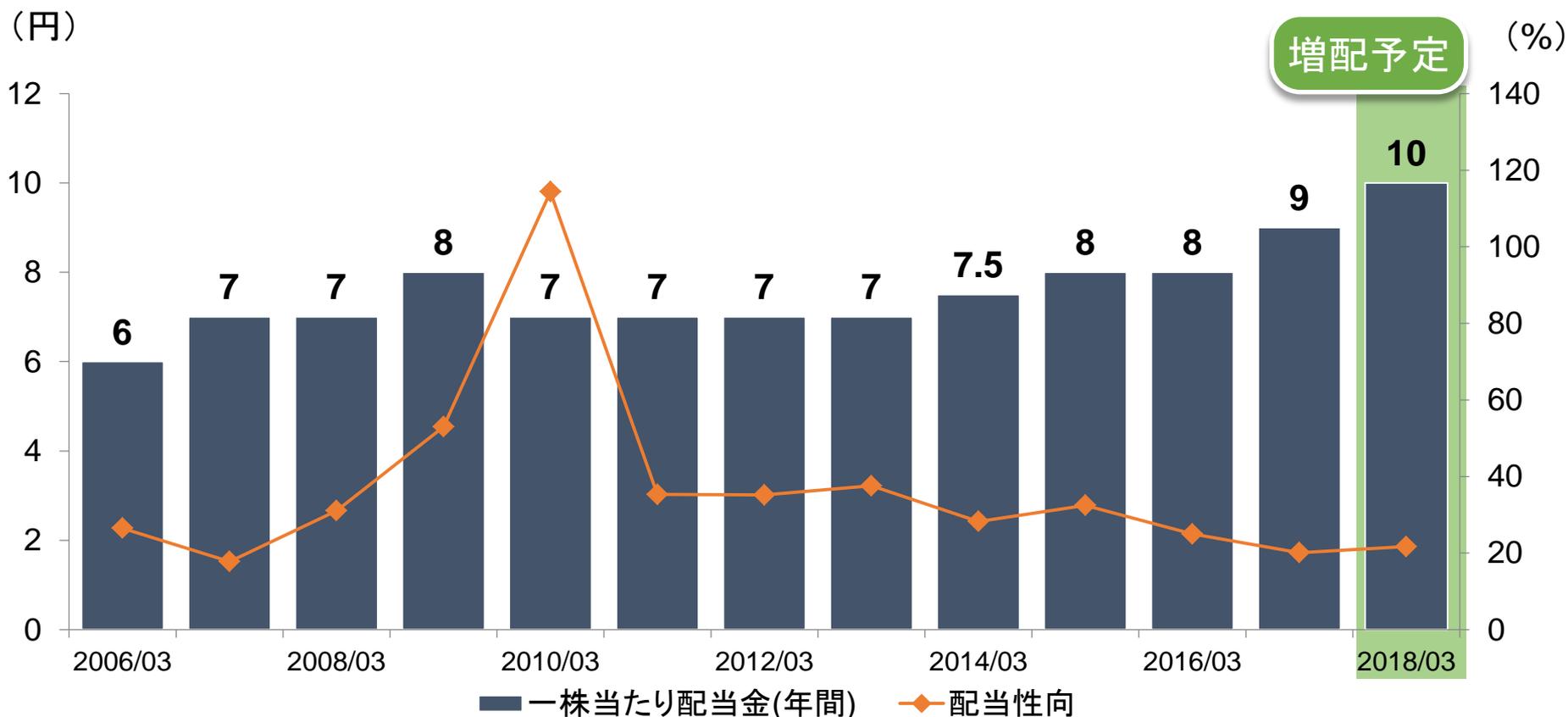
※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

2018年3月期の営業利益増減要因、主な取り組み

単位:百万円	17.3期	18.3期		要 因
	実績	計画	前年増減	
日本物流	1,901	2,096	195	ターミナル事業の復調
日本旅行	659	586	▲ 73	一部取引先の業務渡航の減少
日本不動産	830	830	0	保有不動産の開発・推進
米 州	422	496	74	DC業務の拡大
欧 州	468	116	▲352	スポット(保管業務)案件の減少
アジア	686	988	302	タイを中心とした自動車関連収益の回復
中 国	636	613	▲23	航空貨物弱含み

配当政策

■ 株主への利益還元の充実に努め、18.3期は1円増配の10円を見込む



※2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施する予定



第6次中期経営計画

~重点3分野を成長のドライバーとして
営業利益3割増の74億円達成をめざす~



第5次中期経営計画の振り返り

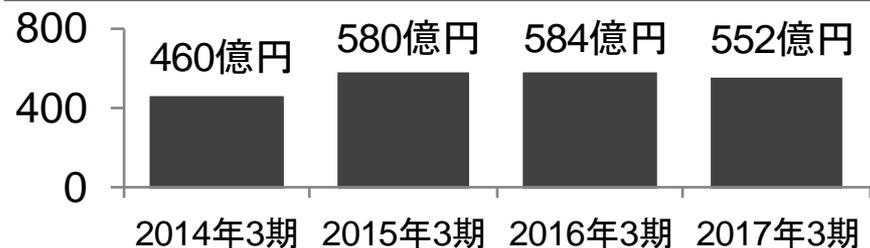
基本方針

「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」への成長・発展

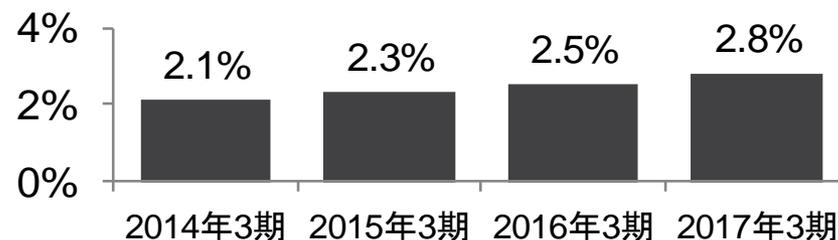
重点施策

1. 海外事業の強化・拡大
「自動車産業」を軸に収益拡大
2. 国内事業の再構築
コスト競争力の強化・スリム化と経営効率化
3. 経営基盤の強化

海外売上高



連結営業利益率

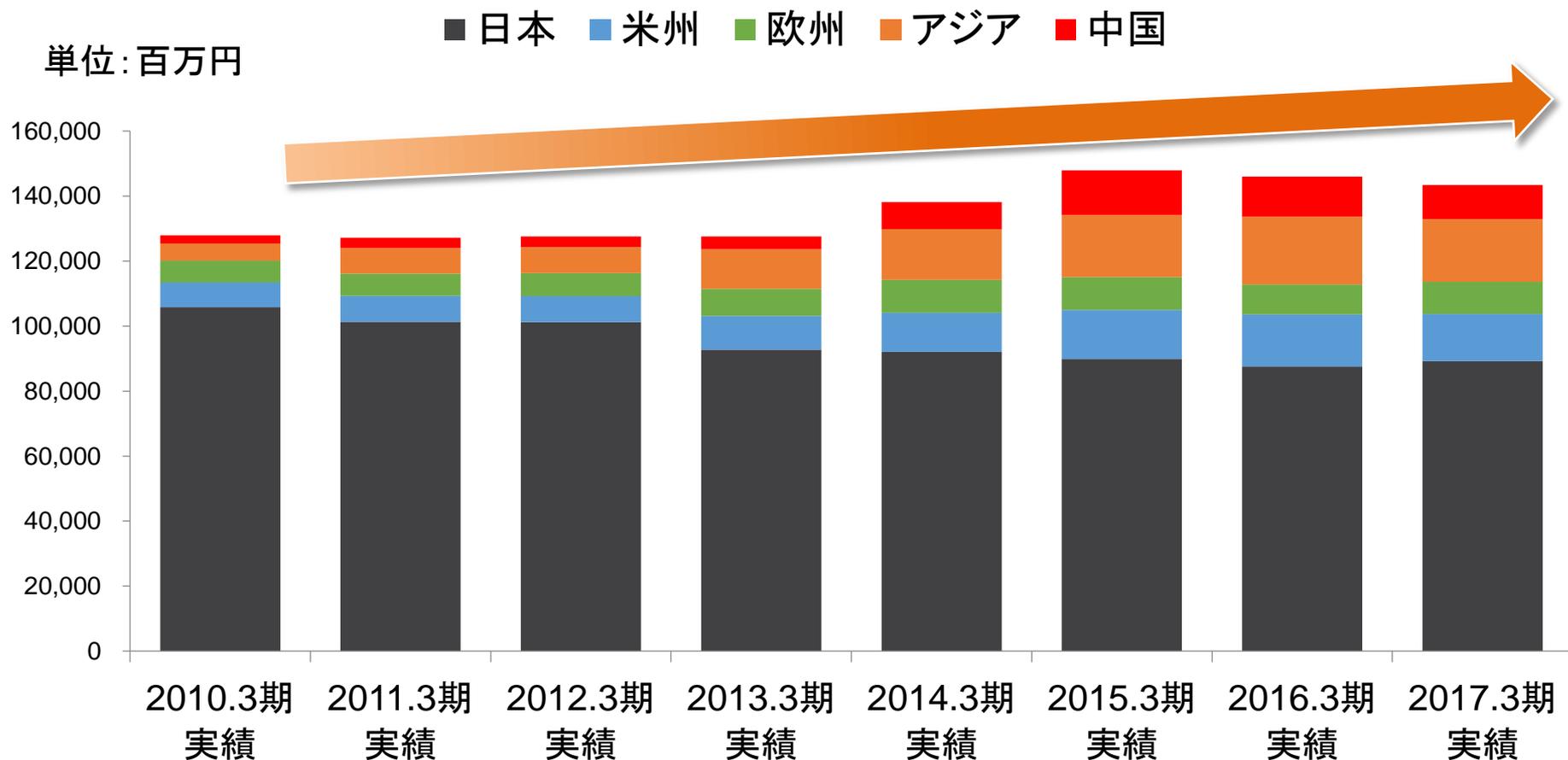


第5次中計数値目標と実績

単位: 百万円	14年3月期	17年3月期	伸長率	期初目標	達成率
売上高	193,709	201,209	104%	213,000	94% ×
営業利益	4,042	5,607	139%	5,400	104% ○
経常利益	4,681	6,266	134%	5,600	112% ○
当期純利益	2,624	4,457	170%	3,600	124% ○

地域別売上高の推移（物流事業）

■ 米州、アジアの牽引により海外売上高シェアが拡大

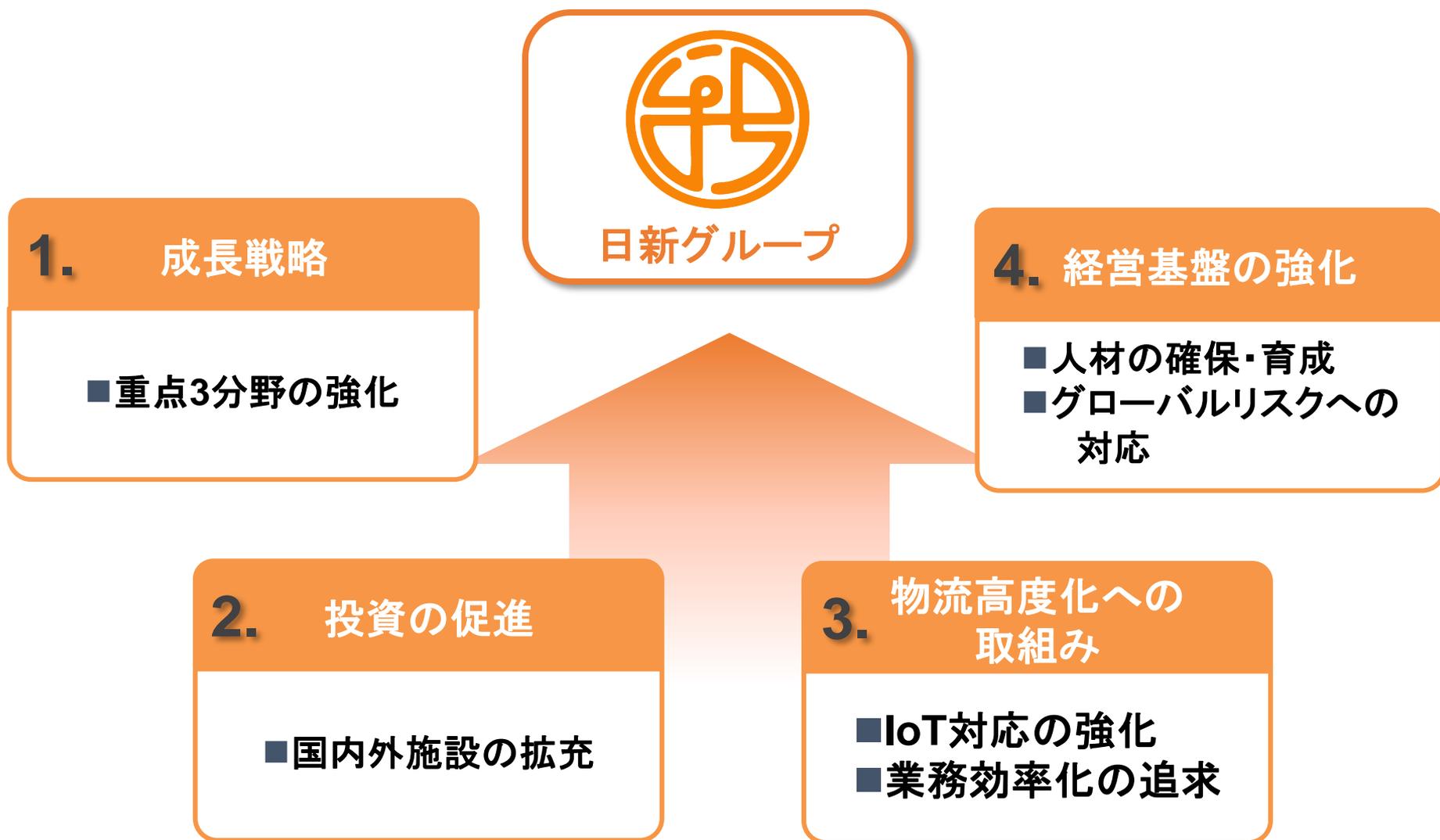


第5次の総括と第6次での課題

■ 第5次で構築した基盤を活かし、第6次は顧客獲得と収益力強化を柱とする

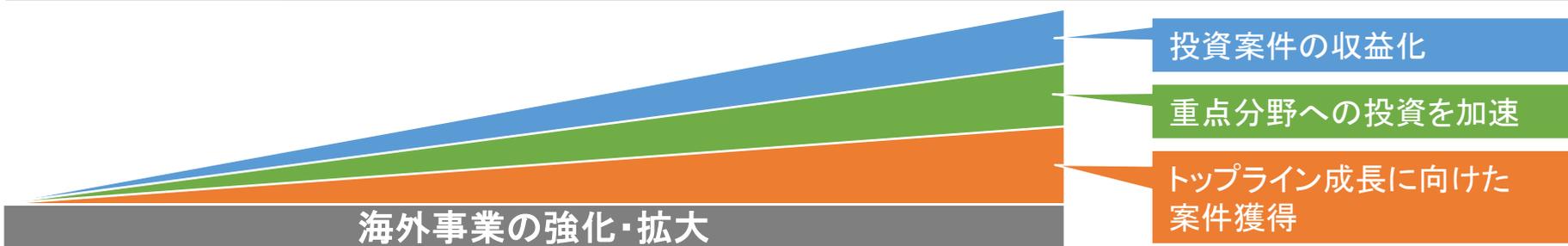
項目	地域	第5次のテーマ	第5次での具体的取り組み	第6次での課題
海外事業の強化	米州	自動車の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国倉庫新規開設(オハイオ、カリフォルニア) ■ メキシコ航空事業自営化(グアダラハラ、メキシコシティ) 	さらなる拠点の拡大
	欧州	基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ オランダ拠点開設(ティルブルグ) ■ 英国自動車部品ミルクラン業務開始(スウィンドン) 	ローカルアカウントの深耕化
	アジア	拠点の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ■ ラオス・インドネシアでの通関業務自営化 ■ タイ拠点拡充(プラチンブリ) ■ インド拠点拡充(アーメダバード) 	物流品質の向上
	中国	収益の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内市場向け配送センター業務の拡大(上海・北京・天津・昆山) ■ 海上(NVOCC)プロキュアメントセンター設置(香港) 	内需拡大に対応した取組み
国内事業の再構築		組織と拠点の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山下地区、神奈川埠頭倉庫、大井事業所再開発着手 ■ 福岡市アイランドシティ港湾用地取得 ■ 陸運事業の再編 	継続と具体化
経営基盤の強化		効率的組織への再編	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務高度化と組織再編 	継続と具体化
		資産の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 不動産の有効活用(京浜ビル跡地、北仲通り) ■ 物流品質の改善 	
		リスク管理の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 監査等委員会設置会社への移行によるガバナンス体制の強化 ■ リスクマネジメント体制構築、グローバル安全基準ガイドライン策定 	
		人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバル人材の確保および育成 ⇒ 海外研修員制度再開 現地採用社員の幹部登用 	

当社を取り巻く課題と対応策



第6次中期経営計画の概要

基本方針	「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」 ~世界最高品質の物流企業への更なる進化~
期 間	2017年4月~2022年3月(5年間)
重点施策	<ul style="list-style-type: none">■重点分野(自動車関連、化学品・危険品、食品物流)■国内事業の収益力向上<ul style="list-style-type: none">・ 物流施設の再編・ 業務効率化の追求・ 物流事業・旅行事業の連携強化・ AIを活用した提案型営業の推進■グループ経営基盤の強化<ul style="list-style-type: none">・ ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底・ 人材の確保と育成・ 資金の効率化などの財務体質の強化



第6次中期経営計画の目標数値

- 売上増と利益率の改善で営業利益3割増の74億円達成をめざす

	2017年3月期(実績)	2022年3月期(目標)
売上高	2,012億円	2,300億円
営業利益	56億円	74億円
経常利益	62億円	77億円
当期純利益	44億円	53億円
営業利益率	2.8%	3.2%
自己資本利益率(ROE)	8.8%	8.0%程度

重点分野別の売上高目標値

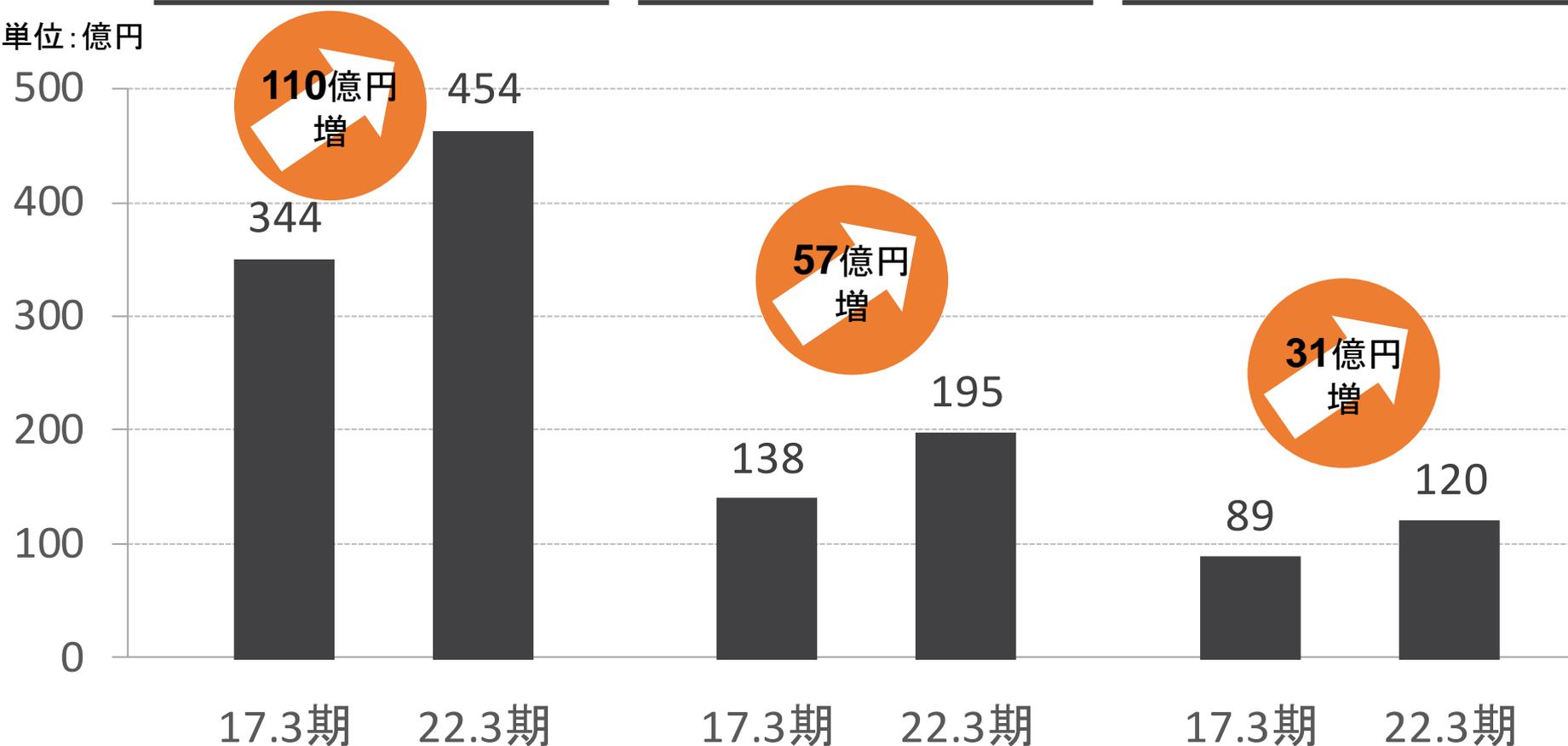
- 自動車関連に加え、成長分野の化学品・危険品、食品の拡大を目指す

自動車関連物流

化学品・危険品物流

食品物流

単位：億円



重点3分野のエリア戦略の俯瞰図

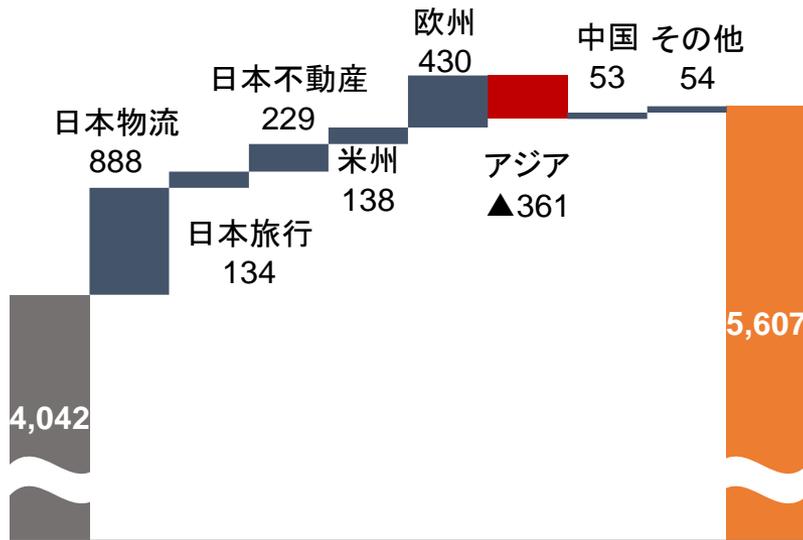
	自動車関連物流	化学品・危険品物流	食品物流
日本	新規顧客開拓	国内施設の拡充	施設の拡充 高付加価値食品の輸出入
米州	倉庫業務の拡大	危険品事業への参入	顧客の拡大 拠点の拡充
欧州	非日系部品メーカー の新規開拓	—	食材の輸出入拡大
アジア	域内物流網の拡充	多様なメニューの 提供による顧客の開拓	食品物流網の構築
中国	グローバルアカウント 各社への重点営業	—	食品物流網の構築

第6次中期経営計画5カ年での営業利益推移

- 日本での着実な成長を土台とし、アジアでの収益ドライバーを確立

第5次

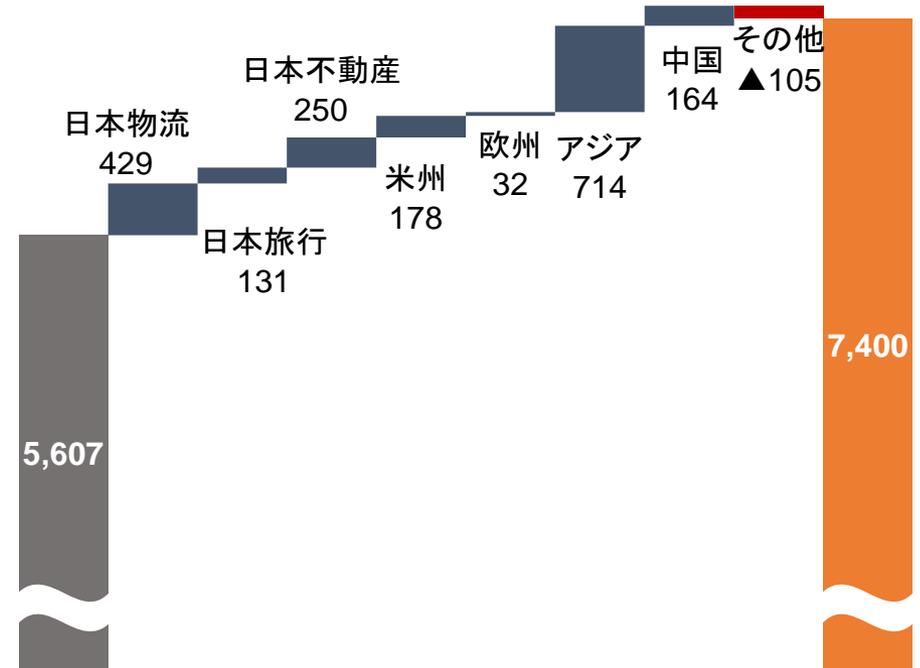
単位：百万円



14.3実績

第6次

単位：百万円



17.3実績 17.3実績

22.3見込

※「その他」は、連結処理等

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

重点分野における投資戦略

■ 新規の設備・投融資 260億円を予定

物流施設の投資計画		
重点分野	2017.4 ~ 2020.3	2020.4 ~ 2022.3
自動車関連	マレーシア(マラッカ) 米国(オハイオ) タイ(プラチンブリ)	
化学品・危険品	横浜市	
食品	東京平和島 横浜本牧埠頭 神戸摩耶	福岡アイランドシティ
その他		中国(上海)
	ITシステム投資	

国内における物流施設の再編



アジアにおける取り組み



自動車 関連物流

- 営業拠点、倉庫拠点の拡充
 - ・タイ 新倉庫の開設
 - ・マレーシア 第1倉庫再建
- グローバルアカウントマネジメントの推進

化学品・ 危険品物流

- 多様なメニューの提供による顧客の開拓
 (IPシステム、構内作業、鉄道ラウンドユース
 ISOタンクコンテナ輸送、域内物流など)

食品物流、 その他

- 倉庫拠点の能力増強・拡充
 (シンガポール・ベトナム・インドネシア)
- ベトナム、フィリピンにおける電機関連貨物の拡大

物流高度化への取組み

- めざましく変わりゆく物流の事業環境に対応



IoT対応の強化

資材管理アプリ展開

先進技術の活用

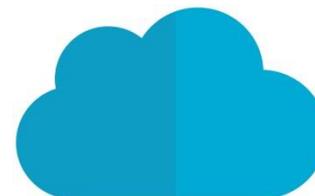
AIを活用した提案型営業

業務効率化の追求

BPOの積極的推進

社内業務の標準化・自動化

顧客とのシステム連携



経営基盤の強化

グローバルリスクへの対応

- ・海外地域本部の強化
- ・経理システムの統一
- ・CMSの海外展開
- ・BCPの整備

人材の確保・育成

- ・専門知識を持った人材育成
- ・グローバル人材の採用と育成
- ・海外法人幹部の現地化

中期経営計画の進捗管理

■ PDCAサイクルを回す

サイクル	会議体	管理内容
1ヶ月	横断チーム・ 部内会議	横断チーム・部門長による進捗確認
四半期	経営会議	役員間での課題共有、対策協議
半 期	全社部店室長 会議	全部店室長による各部店室、横断チームの 進捗確認
半 期	取締役会	全体計画のレビュー

次なる成長シナリオ

■ 次の10年を見据えた新たな課題への挑戦 海外事業の更なる拡大

第5次 中計

2015.3~2017.3

- 売上高2,012億円、
営業利益56億円
- ・海外事業の強化・拡大
- ・国内事業の再構築
- ・経営基盤の強化

第6次 中計

2018.3~2022.3

- 売上高2,300億円、
営業利益74億円をめざす
- ・重点分野への投資加速
- ・国内事業の収益力向上
- ・グループ経営基盤の強化

10年後

2023.3~2027.3

- 売上高3,000億円
営業利益100億円超を
視野に
- 連結売上高 業界
トップ・テン入り

(参考) 物流企業売上高ランキング 2017年版

順位	会社名	売上高 (百万円)
1	日本通運	1,909,105
2	ヤマトホールディングス	1,416,413
3	SGホールディングス	943,303
4	日立物流	680,354
5	セイノーホールディングス	555,457
6	山九	489,441
7	郵船ロジスティクス	469,816
8	センコー	434,000
9	近鉄エクスプレス	420,252
10	福山通運	254,565
11	鴻池運輸	252,550
12	上組	242,399
13	三井倉庫ホールディングス	212,971
14	三菱倉庫	206,831
15	日新	201,705

本日のまとめ

17.3月期 実績

営業利益は4期連続増益、
純利益は過去最高益を更新

18.3月期 通期計画

日本の回復とアジアの成長により
目標達成をめざす

第6次 中期経営計画

重点3分野を成長のドライバーとして
営業利益3割増の74億円達成をめざす

見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループの将来における売上高・利益等の業績に係る計画や見通しが含まれております。

これらは、当社グループが現時点にて把握、入手可能な情報からの判断および想定に基づく見通しを前提としており、実際の業績等は大きく異なる場合があることを予めご了承下さい。